

耳鼻咽喉科・頭頸部外科専攻医研修カリキュラム

I. 研修目標

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患の診断・治療を適切に行うことができ、研修医や医学生に対して適切な指導ができる能力を養うこと。また、チーム医療を理解し、他職種の職員とともに患者を中心にした診療ができるようになることを目標とする。

(Aコース)：日本耳鼻咽喉科学会専門医になるために必要な知識と技能を身につけることが目標の3年間のストレート研修。

(Bコース)：後期研修で耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患について理解を深め、初期治療を修得するための2～3ヶ月のローテーション研修。

II. 研修内容

指導医の下で主治医として入院・外来患者の診察、診断および治療に従事し、各コースの目標に向かって以下の項目を研修する。

(Aコース)：

① 耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の臨床解剖と病態生理を理解する。

② 基本的診察法および局所処置法を習得し外来診療ができる。

耳鏡検査、前・後鼻鏡検査、間接喉頭鏡検査、頸部触診等の理学的検査および耳処置、耳管通気、鼻・副鼻腔処置などを身につける。

③ 耳鼻咽喉科検査を理解し結果を評価できる。

標準純音聴力検査

標準語音聴力検査

内耳機能検査

自記オージメトリー

インピーダンスオージオメトリー

ティンパノメトリー

耳音響反射(OAE)検査

耳小骨筋反射

耳管機能検査

聴性脳幹反応

平衡機能検査

顔面神経機能検査

嗅覚検査

蝸電図検査

超音波検査(甲状腺、唾液腺)

ジアログラフィー

- ④ 画像診断の所見を読影できる。
側頭骨レ線、副鼻腔レ線
CT（側頭骨、副鼻腔、頸部）、MRI（頭頸部）
嚥下動態の検査
- ⑤ 内視鏡検査および内視鏡下の処置ができる。
鼻咽腔ファイバースコープ、喉頭ファイバースコープ、中耳ファイバースコープ
処置用喉頭ファイバー下の生検および咽喉頭異物摘出術
硬性内視鏡による鼻・副鼻腔処置
- ⑥ 患者に診療内容や治療方針の説明が適切にできる。
指導医の立ち会いのもとで自ら患者に説明ができるようにする。
- ⑦ 悪性腫瘍患者を受け持ち全身・局所の管理ができる。
- ⑧ 手術に関する知識・技能を指導医の監督の下に習得し、術者として以下の手術ができる。
(1年次)
鼓膜切開術、鼓膜チューブ挿入術、乳様突起単削開術
鼻出血止血術、鼻中隔矯正術、粘膜下中鼻甲介骨切除術
口蓋扁桃摘出術、アデノイド切除術、扁桃周囲膿瘍切開排膿術、気管切開術
食道異物摘出術、気管支異物摘出術、頸部リンパ節生検
(2年次)
内視鏡下鼻内副鼻腔手術、乳様突起単削開術
甲状腺腫摘出術（片葉切除）、耳下腺腫瘍（浅葉）摘出術、顎下腺摘出術
頸部廓清術
(3年次)
内視鏡下鼻内副鼻腔手術、鼓膜形成術、鼓室形成術、
甲状腺腫摘出術（片葉切除）、耳下腺腫瘍（浅葉）摘出術、顎下腺摘出術
- ⑨ 学会発表を行い、原著論文を書く。

(Bコース)：

Aコースの目標の内、①～⑥の範囲で的確な診断と治療方針が立てられるように、指導医の指導監督の下に知識・技能を修得することを目標にする。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 専攻医週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午 前	外 来	病棟回診	外 来	手 術	外 来
午 後	外 来	手 術	手 術	手 術	外 来

毎週水曜日：カンファレンス

専攻医研修評価表（Aコース）

専攻医氏名 _____

A：目標に到達

B：目標に近い

C：目標に遠い

	自己評価			指導医評価			
	A	B	C	A	B	C	サイン
基本的な診察ができる							
局所処置ができる							
検査を理解し、結果を評価できる							
画像診断の所見を読影できる							
内視鏡検査ができる							
内視鏡下の処置ができる							
患者に診療内容や治療方針を説明できる							
悪性腫瘍患者の管理ができる							
手術の知識・技能を修得する							
学会発表を行う							
原著論文を書く							
研修医に対して適切な指導ができる							
チーム医療に参加できる							

専攻医研修評価表（Bコース）

専攻医氏名 _____

A：目標に到達

B：目標に近い

C：目標に遠い

	自己評価			指導医評価			
	A	B	C	A	B	C	サイン
基本的診察ができる							
局所処置ができる							
検査を理解し、結果を評価できる							
画像診断の所見を読影できる							
内視鏡検査ができる							
内視鏡下の処置ができる							
患者に診療内容や治療方針を説明できる							